

B 次の記述を読み、下の問題について、論述しなさい。(東京都)

あなたは、生活指導・保健指導部に所属している。年度初めの生活指導・保健指導部会で、生活指導主任から、「昨年度、地域住民対象の学校評価アンケートの『学校は、集団や社会の一員として、よりよい生活や人間関係を築く指導を行っている。』の項目で『あてはまらない』という回答が多くありました。そこで、生活指導・保健指導部として、本年度、『子供たちに、他者を思いやる心や社会貢献の精神を育む。』ことを重点事項にしたいと思います。」という話があった。部会終了後、あなたは、生活指導主任から、「先ほどの重点事項に基づいて、生活指導・保健指導部の一員として、指導の重点をどこに置き、どのように取り組んでいくか、具体的に考える必要がありますね。」と指導を受けた。

問題

生活指導主任からの指導を受けて、あなたならどのように児童・生徒の指導に取り組んでいくか、志望する校種に即して、具体的な方策を二つ挙げ、それを取り上げた理由とともに、それぞれ 10 行(350 字)程度で述べ、まとめなどを含めて全体で 30 行(1050 字)以内で述べなさい。ただし、26 行(910 字)を超えること。

日本では、国や社会は誰かがつくってくれているという意識が強い。児童生徒一人一人に集団や社会の一員としての自覚を持たせ、公共のために積極的に行動できるようにするという課題がある。高等学校の生活指導・保健指導部の一員として、生徒の他者を思いやる心や社会貢献の精神を育むための方策を以下に二点挙げる。(序論)

1清掃活動による他者を思いやる心の育成

所属する集団において必要とされ感謝される体験をさせることで、生徒の他者を思いやる心を育むことができる。私は、高校時代運動部のマネージャーをしていた時、部員が感謝の言葉をかけてくれたことで、部の一員として役立っていることを実感し、他者のためになる行動をしようとする意欲が高まった。この経験から、以下の策を提案する。

放課後の清掃を行う場所を他学年の教室とその近くのトイレや廊下などとする。生徒は自分たちのために先輩や後輩が清掃をしてくれていることを意識し、積極的に感謝を伝えるようになる。清掃を行う生徒は他学年の生徒のために行動し、感謝されることで自己有用観が高まり、他者を思いやる心を培うことができる。

2ボランティア活動による社会貢献の精神の育成

国や社会は大人がつくってくれているとの意識を持つ生徒は、大学生と共にボランティア活動を行うことで、社会貢献の精神を育むことができる。

教育実習で、生徒は年齢の近い私の経験談を聞くことで、自分の進路実現などに前向きな姿勢になった。この経験から、東京都が実施する大学と提携した中高生向けボランティア等への参加を促し、大学生と一緒に社会貢献活動をさせる。事前・事後指導では、目標とその達成度を明らかにする。生徒は、年齢の近い者のアドバイスを活かして自らの役割を果たす経験を通して、自分たち高校生も社会に貢献できるということを実感し、積極的に社会貢献活動に取り組むことができるようになる。(本論)

東日本大震災を経験し、「自助」「共助」「公助」の重要性が再確認された今、全ての生徒の他者を思いやる心や社会貢献の精神を育成する必要がある。生活指導・保健指導主任の先生などの指導を仰ぎながら、以上の二点のような活動を通し、よりよい生活や人間関係を築くために必要となるこれらの態度を育成していく決意である。(結論)

PISA2015 では、学力の上位層の割合がトップレベルの国や地域よりも低いことが指摘されている。これは、多くの教育現場において講義型の一斉授業が行われていることが原因であると考えられる。私は、生徒参加型の、主体的・対話的で深い学びを踏まえた授業改善が必須であると考えられる。私は、中学校数学科の教員として以下の取り組みを行う。(序論)

1.ペアワークを活用した授業

生徒一人ひとりが学習内容を定着させるためには、基礎問題を授業中に確実に習得することが重要である。例えば、連立方程式を学んだあとに、加減法と代入法の練習問題を解かせる。まずは一人で取り組ませる。そして、誰が当てられても、解法を説明できるようにと生徒に伝え、隣の席の人と確認させる。確認が終わったら、それぞれの問題で一人ずつ指名し、黒板に書かせながら解説をしてもらう。このように、となり同士で教え合う時間をとることで、解き方の確認はもちろん、細かいミスも見つけることができる。また、最後に繰り返し全体で解き方を確認することで、学習内容の定着を図る。

2.お助けカードを活用した授業

個々の子供に応じたきめ細かい指導を充実させるためには、生徒一人ひとりのつまづきポイントに合わせた指導を行うことが重要である。例えば、単元の終わりに生徒が苦手な問題を中心にまとめ問題を作成し、取り組ませる。生徒が問題を解いているときに机間巡視を行い、間違えていたり、手が止まっていたりする生徒にあらかじめ作成しておいたお助けカードを渡す。このお助けカードには、生徒がつまづきそうなポイントを何種類か予想しまとめてある。このように、一人ひとりのつまづきに合わせて指導をすることで、学習内容の定着が期待できる。また、カードにまとめることで、個別対応の時間が短縮でき、クラス全員に対してきめ細かい指導を充実させることができる。(本論)

良い授業とは、学ぶ楽しさ、分かる喜びが実感できる授業である。私は、休み時間に、授業で学んだ内容をつかって自分で問題をつくり、友達と出題しあうような生徒を育成したい。常に研究を怠らず、授業こそ命、という使命感を持つ教員になる。(結論)

(さいたま市)

さいたま市では、「人生 100 年時代を豊かに生きる『未来を拓くさいたま教育』の推進」を掲げ、やりぬく力で「真の学力」を育成することを進めています。

あなたはこのことを踏まえ、教師としてどのように取り組んでいきますか。具体的に述べなさい。

技術革新やグローバル化が進む現代社会で豊かに生きるためには、「真の学力」として、やり抜く力を基盤に、思考力・判断力・表現力や課題発見・問題解決能力を育む必要があると考える。やり抜く力とは、継続的に粘り強く他者と協働して物事を遂行する力である。私は思考力・判断力・表現力を育む活動と課題解決力を育む授業づくりに取り組む。以下具体的に述べる。

1. 思考力・判断力・表現力を育む活動

互いの違いやよさを認め合える学級では、児童が自分の存在感を感じ、意見を述べやすくなる。私は全教育活動を通して、安心感のある学級づくりに努める。週に 1 回、朝の会を利用し、学校生活における改善点について「ミニ討論会」を設定する。考えをまとめることで、児童の思考力を育む。また 4 人程度の小グループにおいて、自分の考えを相手に伝えることで、判断力や表現力を育むことができる。このように継続的に児童の思考力・判断力・表現力を育む。

2. 課題解決力を育む授業

私は考えるプロセスを重視した問題解決的な学習を行う。社会科では、資料提示の仕方を工夫することで、児童の疑問を引き出し、学習問題を立てる。例えば平安時代から鎌倉時代、武士の立場が変わることに気づかせるため、2 つの絵巻物を提示し、比較することで「武士はどのように力を付けたのか」という児童の疑問を引き出す。その疑問を学習問題として設定し、単元を通して話し合い、解決しながら授業を進める。このように継続的に問題解決の過程を重視することで、児童の課題解決力を育成することができる。

以上のように、児童が継続的に粘り強く、他者と協働して物事をやり遂げる力を育む。そのため「教師力」パワーアップ講座に参加するなど、自らが常に学び続け、児童の「真の学力」の育成に全力を注ぐ覚悟である。

課題

島根県の将来を担う子どもたちの育成をどう実践していきますか、800 字程度で述べなさい

現在、島根県では人口の減少や少子高齢化などの課題がある。これらの課題を踏まえ、学校教育においては地域と連携して教育を行い、島根の将来を担う人材の育成が必要とされている。このような人材を育成していくために、中学校社会科教員として、以下の 2 点のことに力を入れて実践していく。

1. ふるさと学習を行う

私は、社会科の地域調査の分野や総合的な学習などを利用し、ふるさと学習に力を入れていく。5～6 人のグループで地域（地域の文化や農産物・史跡文化財など何か具体例を述べると大変に説得力のある論文になります）についての調べ学習を行う。生徒が選択肢の中から分野を選び、図書館や ICT 機器を用いて調べる。その後、現状についての課題を見つけ、具体的な解決策などについて話し合い、グループごとに発表を行う。最後に一人一人がまとめを行う。この活動により、生徒がふるさとに興味・関心（良い）を持つことができる。また、地域の課題解決のために、主体的に考え、行動する力を養うことができる。

2. 博学連携を行う

博物館や図書館など地域施設との連携を行っていく。授業や特別活動の時間において、地域施設を利用し、学習（どんな？具体例を）を行う。また、施設職員の方を学校にお招きして、講演や授業の講師を行っていただく。この活動を通して、生徒が地域とのつながりを実感することができる。また、より多面的で深い学びを実感することができる。加えて、地域と連携して教育を行うことができ、「地域に開かれた教育課程」の実現にもつなげることができる。

これらの活動を通して、ふるさとに目を向け、ふるさとを思い、課題解決のために行動できる人材を育成していく。それにより、島根の将来を担う子どもたちの育成を行っていく。これから様々な困難にぶつかることが予想される。しかし、一人で抱えることなく、同僚の教職員や保護者、地域の方々と連携を行いながら、職務に努めていく覚悟である。
※問題に正対するとともに、人口の減少や少子高齢化などの課題をとらえていること、その課題を踏まえ、地域と連携して教育することで将来を担う子供たちを育成していく、という視点は素晴らしいです。

解決策もふるさと学習と博学連携も具体的でよいです。添削にあるように具体例を挙げるとさらに説得力のあるすばらしい論文になります。

とても良い論文です。

各自治体の論文問題

○令和3年度神奈川県(小中高共通)

神奈川県では、児童や学校等の実態に応じ、教材・教具や学習ツールの一つとしてICTを積極的に活用し、必要な資質・能力を育成する主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んでいます。このことを踏まえ、あなたは、ICT活用の利点を生かした授業実践にどのように取り組みますか。ICTを活用する意義やねらいとともに、あなたの考えを600字以上825字以下で具体的に述べなさい。

○令和4年度埼玉県(小学校・中学校・養護教諭・栄養教諭) 制限時間は60分、字数は800字程度とする。

【問題】

埼玉県教育委員会が求める教師像3つの中の1つに「健康で、明るく、人間性豊かな教師」があります。あなたは、このことをどのように捉えますか。あなたの考えを述べなさい。また、あなたは「健康で、明るく、人間性豊かな教師」であるために、日々、どのような努力をし、どのような教育実践をしていきますか。具体的に述べなさい。

○令和4年度埼玉県(高等学校) 制限時間は60分、字数は800字程度とする。

【問題】

埼玉県教育委員会では、令和3年2月に埼玉県教職員MOTTO(モットー)「未来を創る、こどもたち。未来を育てる、わたしたち。～未来への責任～」を策定しました。あなたは、この埼玉県教職員MOTTO(モットー)をどのようにとらえますか。あなたの考えを述べなさい。また、そのことを踏まえ、あなたは教員としてどのように教育活動に取り組んでいきますか。具体的に述べなさい。

○千葉県 2020

【問題】

千葉県・千葉市では平成30年3月に「千葉県・千葉市教員等育成指針」を策定しました。その中の「教員等が身に付けるべき資質能力の4つの柱」の一つに、学習指導に関する実践的指導力を掲げています。これを踏まえ、あなたはどのような授業実践を行いますか。また、教員生活を通じてどのように授業力向上に取り組みますか。新学習指導要領で示されている「育成を目指す資質・能力」にもふれながら800字以内で書きなさい。

主体的・対話的で深い学びの論の展開

<取組①> 情報活用能力を高め、学びに向かう力を育む取組

児童は誰もが探求心をもっている。探求心は新たな知識を開花させ、学びに向かう力へ導く。学力の基盤となる情報活用能力の向上を学びに向かう力の育成に位置づけ主体的・対話的で深い学びの授業を展開していく。授業内容等について主幹教諭と連携し校内研修会で企画・提案し、自ら授業を行う。テーマは「荒川区再発見」として社会科の授業で行う。まず、5～6人のグループをつくり、それぞれ伝統工芸、農産物、交通、史跡文化財等について学校図書館、パソコン等を活用して調べさせる。調べ学習は探求心を引き出す。次に持ち寄った情報の取捨選択を話し合わせ、1グループ5分間のプレゼンテーション資料をつくり、発表させる。情報の整理は思考力と判断力を養い、発表活動は表現力を養う。生まれ育った地域を学習することで郷土愛を育むことも期待できる。この授業研究を学びに向かう力の礎となるよう学校全体の授業実践に計画的・継続的に発展させていく機会とし、教員の資質能力向上に資する役割を担っていく。

○令和3年度神奈川県(小中高共通)